

～ 第6次留萌市総合計画意見交換会 ～

【開催概要】

- 平成28年8月2日（火） 18:30～20:00
- 各種団体合同意見交換会
- 市役所3・4号会議室

【出席者】

社会教育委員 : 前田郁美、北野克誠、(炭谷憲治、磯貝富子)
青少年育成推進協議会 : 磯貝富子、(炭谷憲治)
文化会議 : なし
体育協会 : 長尾保廣、中尾輝幸、炭谷憲治
老人クラブ連合会 : 松下功、和田哲夫
防犯協会 : 齊藤正義、宮尾久志
観光協会 : 安達利子、佐藤雄一郎 計6団体12名
委員 : 伊端座長、大館副座長
市 : 佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第6次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

〔テーマ・市民参加〕

- 市民が、どういう立場でかわりを持っていくのか、会議体として参加していくのが分かり難い。
- 第6次はこの中から一つでも達成していけるように、動いていく人や方向性が見えれば団体も市民も動き出す。動かないマチは発展もない。
- 基本構想は出されるが、具体策が見えてこない。いつもやむやになっている。
- 教育も大事、福祉も大事何もかも全部大事で的を絞れない。特化していく必要があると思う。
- ここは我慢してここは進めるといのように、市民を誘導していける優先順位が必要。
- 5次の検証結果として漠然としすぎて、どこから進めばいいのか分からない。
- 大きな目標と目の前を分けて考えていかなければならない。
- 市民に、知らせる方法の検討と市民協力が得られる方法を考えていかなければならない。
- 市民が一緒になって取り組んでいこうという気持ちになれるかどうかだと思う。目標をしっかり持って市民にメッセージをはっきり出した方がいい。
- 市民にどう周知していくか、やる気を起こさせていくか仕組みが必要。
- 6次計画を一人でも多くの方に知ってもらうことが必要。今日の参加者も少ない。もっと集まらなければいけないと率直に思った。
- 市民予算枠みたいなものをもって、市民に協力を仰ぐくらいのものであれば、市民が活きる予算になってくる。

〔教育関連〕

- 小中学校から高校進学の際に都市部に出る子どもが多い。ここを止めないと戻っては来なくなる。その理由を検証し、ニーズに合った学校づくりをしていかないと難しい。
- 留萌高校も進学に力を入れ、進学率も上がっている。頑張れば進学率も上がっており、目に見える、数字に表れることで、市民も評価する。
- 高校行って進学率を上げ大学進学すると戻ってこない。100人のうち10人が地方に出て活躍するのも財産だが、たかが北大に1人2人。90人が地元に残りたい、ここに行く

たいという子どもたちをフォローするのが本来の教育。

- 勉強だけ、学力だけやっていたらいいのか。そうじゃないところが重要で、視点を持っていくことが必要。
- コミュニティスクールは、親の言うこと、地域の言うことを受け入れるものではなく、高いレベルで検討していくもの。良いところ悪いところを見極め、留萌に合った教育をつくる必要がある。

[公共施設・その他]

- 市役所庁舎の建て替え問題があるが、災害(津波や洪水)時に機能する場所に無ければいけない。
- 市役所、文化センター、スポーツセンターなど建て替えが必要。北海道合板跡地に建てることで人が動き商店街に流れる。交通の便もよくなる。中心街に公共施設を建てるべきではないか。土地が狭いのであれば、副港を埋め立てれば良い。
- 高校統廃合後の利活用も含め、市役所が振興局に移り、振興局が留萌高校に移るのはどうか。
- 高校の統合でなぜ千望高校校舎を使うのかと疑問。目先のかかるお金のために国道沿いの留萌高校を廃校にするのは、もったいないような気がする。20年後30年後を考えた時に、それで本当に良かったのかと思う。
- 合宿に取り組んでいるが、はたして宿泊場所はあるのか、スポーツがやれる環境にあるのか。将来展望をもって計画的に改修を進めていかなければならない。
- 滝ノ上の芝桜、花は人を呼びつける。誰が芝桜を植えたかという個人の方がやり始めたもので、最初はキチガイ呼ばわりされていた。信念をもってやり続けた結果が今の姿になった。
- まちの中心を決めることは大切なこと。交通網整備も必要で、市民の考えも変わってくる。